

平成 27 年度
「運営に関する計画」
(中間評価)

大阪市立九条北小学校

平成 27 年 1 月

大阪市立九条北小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

◎学校教育目標

人間性豊かで 実践力のある児童の育成をめざす。

(校訓)

- ・よく考える子(知)
- ・すなおな子(徳)
- ・がんばる子(体)

知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育成する。

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○児童アンケートにおいて、「調べ学習の方法を身につけることができたか」では、低・高学年とも一定の成果が見られた。しかし、「授業がわかりやすいと思う児童を85%以上にする」では、数値目標を4ポイント下回り、学習が「わかりやすくて楽しい」と回答する児童の割合が、学年が上がるほど低くなる傾向が明らかになった。そこで、デジタル教科書や書画カメラ、プロジェクターなどのICT機器を活用して、児童の興味・関心を高め、全教員の授業研究などで授業力の向上を図り、児童が「わかりやすい」と思う授業の構築を一層目指す必要がある。

○全国学力・学習状況調査及び学習理解度到達診断においては、依然として国語科に課題が見受けられ、このことから言語力の育成に焦点をあてた国語科の授業研究を継続して取り組み、国語科の基礎・基本の定着を図っていくとともに、伝えあう力の一層の育成が必要である。

○学校生活における規範意識や相手の気もちを考え、仲良く助け合おうとすることに課題が見受けられるので、児童会活動と学級活動を密接に結び付け、学年に応じた役割分担を明確にしていく。また、言葉遣いアンケートの活用や道徳・人権教育の充実を図り、あらゆる場を通して「相手の気もちを考える」意識を高めていく指導に努める。

○「歯みがき・手洗い・うがい」について、それぞれ分けて焦点を絞り、学期ごとに重点的に取り組めるようにするとともに、保健だより等で保護者への啓発を行い、児童自らが進んでできるよう習慣化を図っていく必要がある。

中期目標

【視点 学力の向上】

○平成27年度末の児童アンケート「授業で自分の意見をまとめたり、発表したりすることができる」と答える児童の肯定的回答率の割合を70%以上にする。

○平成27年度末の学習理解度到達診断(国・算)における通過率をいずれの学年も80%以上にする。
(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連) (ガバナンス改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

○平成27年度末の児童アンケート「相手の気持ちを考え、仲良く助け合って活動している」と答える児童の肯定的回答率の割合を90%以上になるとともに、「よくあてはまる」と答える児童の割合を50%以上にする。

(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連) (ガバナンス改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

○平成27年度末の児童アンケート「手洗い・うがい・歯みがき・爪切りを進んでしている」と答える児童の肯定的回答率の割合を90%以上にする。

(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連) (ガバナンス改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

児童アンケートにおいて

○調べ学習の方法を身につけることができたか。(低学年85%を目標とする。)

○ＩＣＴを活用した調べ学習の方法を身につけることができたか。(高学年80%を目標とする。)

○授業がわかりやすいと思う児童を85%以上にする。

(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連) (ガバナンス改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

児童アンケートにおいて、以下の項目で肯定的回答率の割合が（ ）内以上になるようにする。

○「児童会活動や学級会活動では、相手の気持ちを考えながら工夫して活動している。」(85%)

○「廊下、階段を正しく歩き、安全に気をつけている。」(80%)

○「相手の気持ちを考え、仲良く助け合って活動している。」(85%)

○「学校が美しくなるように掃除などをがんばっている。」(85%)

(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連) (ガバナンス改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

○児童アンケートで「手洗い・うがい・歯みがき・爪切りを進んでしている」と答える児童の肯定的回答率の割合を90%以上にする。

(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連) (ガバナンス改革関連)

大阪市立九条北小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート) 1

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおり達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めもせず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況	
	達成率	評価基準
【視点 学力の向上】 児童アンケートにおいて ○調べ学習の方法を身につけることができたか。(低学年85%を目標とする。) ○ICTを活用した調べ学習の方法を身につけることができたか。 (高学年80%を目標とする。) ○授業がわかりやすいと思う児童を85%以上にする。 (カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連) (ガバナンス改革関連)	88 91 84	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【教科・総合的な学習の時間】 ◎基礎的・基本的な内容の定着を図る。 ◎各学年に応じた言語活動の内容を工夫する。 ◎課題解決に向けて主体的に学ぶ子どもを育てる。	(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連) (ガバナンス改革関連)
指標 ◇基礎学力の向上を図るため、朝学習などで計算や漢字、音読や視写など内容を工夫して継続的に取り組む。 ◇国語科における「書くこと」に関する活動を充実させる。 ◇体験活動を生かした授業展開を工夫する。 ・市立科学館・大阪歴史博物館の見学の実施 ・地域人材を活用した地域の町工場や商店街の見学、福祉体験等の実施 ・芸術鑑賞の実施 ・スポーツ交歓会や区音楽交流会への参加	B
取組内容②【授業研究を伴う校内研修の充実】 ◎「自分の思いや考えをすすんで表現する子どもを育てる」ための指導法の研究。 ◎授業研究を行い、指導法の研究に努める。	(カリキュラム改革関連)
指標 ◇全教職員の共通理解のもと、研究主題を設定し、継続研究を行う。 ◇指導力向上に向けた校内研修を年間7回以上行う。 ◇教員全員が年間1回以上の授業研究を行う。	B

取組内容③【ICTを活用した教育の推進】

◎授業の中で効果的なICTの活用を図る。

(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)

B

指標

- ◇情報教育年間計画を作成し、学年の実態に応じたパソコンルームを活用した授業について工夫を図る。
- ◇全ての学年・学級でICTを活用した授業実践を工夫する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- 図書室の本やインターネットの使用、インタビューなどを通して、調べ学習を行うことができつつあるが、十分に使いこなせていない児童もいる。
- 「授業がわかりやすいと思う児童を85%以上にする。」との目標に対して、数値目標が1ポイント下回った。学年が上がるほど学習内容が難しくなり、低学年からの積み重ねが不十分な児童にとっては、内容の理解に支援が必要になってくる。
- ICTの活用については、学年によってばらつきがみられる。情報教育年間指導計画をもとに、学年の実態に応じた、指導を計画的に行う必要がある。

【取り組み内容①】について

- 基礎的・基本的な内容の定着を図るため、計算・漢字・視写など内容を工夫して取り組んでいるが、個人差がある。また、個に応じた課題を設定し、個別のプリント学習など行っている。
- 校内で共通して視写に取り組むことで、早く丁寧に字を書ける児童が増えてきている。また、パンフレットやリーフレットなど書く活動を国語科で計画し取り組んでいる。
- 社会見学などで、地域に出かけて活動し、質問や交流をしたり見学をまとめたりして自主的に学習を進めることができた。

【取り組み内容②】について

- 「自分の思いや考えをすすんで表現する子どもを育てる」ためにみんなの前で発表する機会を多く持っているので、発表の仕方が分かってきた児童が増えてきた。また、「書くこと」に重点をおき、ノートやワークシートを活用して書く時間を設けて取り組んできた。そのため、文章を書くことに自信をもって取り組むことができるようになってきている。
- 計画的に校内研修を行っている。

【取り組み内容③】について

- ICTを活用した教育としてパソコンを使い調べ学習の方法が身に付いてきている。
- 年間計画を作成することで、各学年の課題が明確になってきている。
- 調べ学習を行う際、インターネットを使うことで、興味をもって取り組むことができている。しかし、膨大な情報の中から、自分に必要な情報を選ぶことを困難としている児童も見られる。

今後の改善点

【年度目標】について

- インターネットを使用するだけでなく、定期的に蔵書も点検し、調べ学習の充実を図っていく。
また、調べ学習の経験を積み重ねる。

【取り組み内容①】について

- 毎日の課題ができない児童が決まっているので、個別のプリント学習を継続する。また、学習定着のために家庭との連携が必要である。保護者にも協力してもらえるように働きかける。

【取り組み内容②】について

- 昨年度のアンケート結果の達成状況よりは 3 ポイントアップしているが、分かりやすい授業を工夫すると共に、学習内容の更なる定着を図る必要がある。
- 教員全員が授業研究に取り組めるように、確認する。

【取り組み内容③】について

- I C T 環境の整備と併せて、児童にとって効果的な活用方法の研究をさらに追究する。

大阪市立九条北小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート) 2

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおり達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めもせず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況	
	達成率	評価基準
【視点 道徳心・社会性の育成】 児童アンケートにおいて、以下の項目で肯定的回答率の割合が（ ）内以上になるようにする。	87	
○「児童会活動や学級会活動では、相手の気持ちを考えながら工夫して活動している。」 (85%)	80	A
○「廊下、階段を正しく歩き、安全に気をつけている。」(80%)	85	
○「相手の気持ちを考え、仲良く助け合って活動している。」(85%)		
○「学校が美しくなるように掃除などをがんばっている。」(85%) (カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連) (ガバナンス改革関連)	91	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【特別活動】 ○児童会活動や学級会活動では、児童の主体性を養い、学校・学級生活の充実と向上を図るために、工夫して活動できるようにする。(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)	
指標 ◇各委員会で協力して廊下歩行指導を行っていく。 ◇全校オリエンテーリング等の学校行事を企画し、児童の主体性を養う。 ◇活動前に、リーダー会議を行い、活発な話し合い活動ができるようにする。	B
取組内容② 【安全教育の推進】 ○日々の指導や廊下歩行の指導、せいかつ週間、看護当番の設定によって正しい歩行と身だしなみ(黄帽・名札・服装)を整えることができるようとする。 (マネジメント改革関連)	B
指標 ◇歩行指導週間を設け、児童会活動と連携しながら、子どもたちが主体的に正しい歩行ができるようにする。 ◇毎日の看護当番により身だしなみが整うようにする。	
取組内容③ 【道徳教育の推進】 ○相手の気持ちを考え、仲良く活動しようとする心を育てる。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 ◇道徳副読本やわたしたちの道徳をはじめ言葉遣いに関する内容を学期ごとに組み入れた年間指導計画を作成し、道徳教育を充実させる。	

<p>◇言葉遣いアンケートを年2回（5・1月）に実施し、実態に合わせた指導を年間を通して進めていく。</p> <p>◇児童会活動や学級活動の中で「相手の気持ちを考える」ができるような工夫した活動を取り入れる。</p>	
<p>取組内容④【人権を尊重する教育の推進】</p> <p>◎道徳・人権教育年間計画に沿って、各学年が実際に取り組み互いの良さや違いを認め合い助け合って活動できる集団の育成に取り組む。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標</p> <p>◇学期に一単元（3～5時間）各学年が人権教育に取り組む。</p> <p>◇年に一回実践報告会・人権教育研修会を行う。</p> <p>◇支援を要する児童の実践交流会を年に2回行う。</p>	
<p>取組内容⑤【美化・環境整備】</p> <p>◎掃除用具を丁寧に使って、隅々まできれいにし、道具を元の場所に戻す。 (カリキュラム改革関連) (ガバナンス改革関連)</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- 目標数値を上回り、計画的に進められている。しかし、高学年になるにつれて達成率が低くなっているため、さらに工夫していく。
- 本年度より委員会活動を活用したことにより、児童の意識アンケートで目標値の80%を達成することができている。
- 年間指導計画に沿って道徳教育・人権教育を進めたり、学級や学年に合わせた取り組みを行ったりすることで、達成率は85%となり目標に達することができた。
- 達成率を上回っているが、自主的にすみずみまで掃除するよう指導していく。

【取り組み内容①】について

- 児童会活動は、夏の集いやオリエンテーリングなど、計画通りに進められている。たて割り班活動やクラブ活動においては、高学年が中心となって活動を進め、異学年交流ができている。

【取り組み内容②】について

- 廊下指導を児童同士の声掛けにすることにより、児童の意識を高めることができている。しかし、まだ、廊下で走ったり、遊んでいたりする児童がみられるので引き続き指導をしていく必要がある。見出し身については、指導を受ける児童が決まっている傾向があるので根気よく指導していく必要があると考えられる。

【取り組み内容③】について

- 年間指導計画に沿って、副読本やわたしたちの道徳をはじめ様々な教材を活用し、道徳教育を進めることができている。また、学級活動や終わりの会などのあらゆる時間で、相手の気持ちを考えることができるような指導を続けている。そのため、相手の気持ちを考え、仲良く助け合うことができるようになりつつある。
- 言葉遣いアンケートを実施し、実態に合わせた指導を継続することで相手の気持ちを考えた言葉を意識して遣うことができるようになりつつある。

【取り組み内容④】について

- 児童理解実践交流会を定期的に実施することで、配慮を要する児童について、全教職員で共通理解を図ることができている。
- 教育活動全体の場で、さまざまな声かけや指導を重ね、児童自身が考えて行動できるように取り組んでいる。また、友だちのよさを発表する場を設け、お互いのいいところを見つけさせるようにしている。

【取り組み内容⑤】について

- 委員会の児童による点検も細かく頑張っている。2学期からは、担当の先生と相談をして教室以外の場所の点検を行っている。児童のやる気にもつながり、励みとなっているので今後も継続して取り組んでいく。
- 引き続き、不徹底になりがちな箇所や汚れの目立つ場所を、週1回や月1回など工夫してわりあてて掃除をしていく。

今後の改善点

【年度目標】について

- 児童アンケートにおいて、全ての項目で目標を達成している。児童主体の取り組みを進めている成果が数値で表れている。

【取り組み内容①】について

- 委員会活動・たてわり班活動で、高学年児童を中心に話し合い活動を行うことができている。

【取り組み内容②】について

- 守っていない児童に対して根気よく、継続した指導をしていく。

【取り組み内容③】について

- 相手の気持ちを考えていない児童には、その都度指導を続ける。また、相手を大切にできるような気持ちを育てられる取り組みを行う。(たてわり班で異学年に対する思いやりをもてるような取り組み)

【取り組み内容④】について

- 児童会活動だけでなく、教育活動全体を通して、児童が互いのよさを認め合う場を継続して設定するようとする。

【取り組み内容⑤】について

- 引き続き、委員会児童による掃除点検に取り組む。
- また隅々までゴミが取り切れていないため、目の届きにくいところも定期的に点検を行っていく。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおり達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めもせず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況	
	達成率	評価基準
【視点 健康・体力の保持増進】 ○児童アンケートで「手洗い・うがい・歯みがき・爪切りを進んでしている」と答える児童の肯定的回答率の割合を90%以上にする。 (カリキュラム改革関連) (ガバナンス改革関連)	86	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容【健康的な生活習慣の確立】 ○手洗い・うがい・歯みがき・爪切りを進んでできるようにする。 (カリキュラム改革関連) (ガバナンス改革関連) 指標 ◇毎朝の健康観察のときに、歯みがき・爪切りの確認をする。 ◇学期に1回ずつ取り組む保健強調週間の内容を工夫する。 ◇保健だよりを毎月配付したり、保健がんばりカードに保護者確認欄を設けたりすることで、保護者への啓発を図る。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標】について ○ 毎朝の健康観察や保健強調週間、保健だよりの作成等の取り組みにより、「手洗い・うがい・歯みがき・爪切りを進んでしている」と答えた児童が86%となり、目標の90%には至っていない。
【取り組み内容①】について ○ 保健強調週間では、委員会児童による1年生への手洗い指導を行ったり、昨年に引き続き「手洗いの歌」を放送したりして、手洗いに対する意識を高めるようにした。また、保健がんばりカードの内容を見直し、児童自らが振り返りをしやすい形式にした。

今後の改善点
【年度目標】について ○ 手洗いやうがいについては習慣化できている児童が多いが、爪切りや歯みがきについてできていない児童が目立つ。特定の児童ができていないようなので、個別の対応、また、保護者への啓発が必要である。
【取り組み内容①】について ○ 手洗い・うがいの必要性を理解することができるよう、保健指導を続ける。

